



元所員・故小熊 隆さん を偲んで

長 崎 明

小熊先生の突然の訃報に接し、一瞬「まさか」と耳を疑いました。あんなにお丈夫そうで、まだまだ私たちにいがた県民教育研究所にご助言が頂けると願っていたのに誠に残念というよりほかありません。

思えば、小熊先生は研究所設立の当初から呼びかけ人や所員の一人としてお力を尽くしてくださいました。ご風貌のわりにそれほど目立つお人柄ではなく、奥底に強いご意志をお持ちの方と拝察していました。また、黙々と細かい点にも気を配って下さる一面をお持ちの方でもありました。

もう20年も前のこと、私がふと「雪割草を見に行きたい」ともらしたところ、分水町にお住いの先生は「これこれのバスに乗って、国上山のお寺に行き、お寺の裏の登山口から少し登った付近が良いよ」と教えて下さいました。私たち夫婦二人でそのお寺に着いたところ、思いがけず小熊先生がお待ちになっていて、ご丁寧に登山口を教えて下さいました。小熊先生ご自身

は、膝の具合が悪くて登れないが、私たちが迷わないように、わざわざ自家用車で駆けつけて来たとお言葉に、すっかり恐縮してしまいました。

また小学校の教師として「小熊先生の理科の授業は、わかって楽しい」と教え子が目を輝かす実践で、子どもたちから慕われていたそうです。西蒲原の地に根を下ろす教育研究団体の「西蒲民教」でも、所員だった故野沢勲先生と共にリーダーとしてご活躍されたこともお聞きしておりました。

長年にわたり、こういうお心構えで子どもたちの教育に当たってこられたからこそ、先生のお考えどおりの教育ができるにはどうすればよいかを探究なさるため、県民教育研究所の設立にご尽力下さったのでしょう。お亡くなりになる前にもう一度ゆっくりと先生のお話伺いたかったのですが、今はそれも叶いません。先生のお考えを実現できるよう一層努力を重ねたいとぞんじます。小熊先生、安らかにお眠り下さい。(にいがた県民教育研究所理事長)